

大森の海苔養殖の歴史を学ぼう

大森 海苔のふるさと館では、大森が海苔生産地として栄えたころの海苔養殖に使われていた船や道具類を展示しています。

また、毎月、海苔や海に関する体験や講座なども開催しています。中でも冬限定の海苔つけ体験がとても好評です。



大森の海苔問屋を巡ろう

大森には海苔問屋が40軒以上あります。

小売りをしているお店もあり、こだわりの産地から仕入れた海苔を扱っています。

大森本場乾海苔問屋協同組合 公式WEBサイトはこちら ▶▶▶▶



〒143-0005 東京都大田区平和の森公園2-2

Tel 03-5471-0333 Fax 03-5471-0347

開館時間 午前9時～午後5時(6～8月は午後7時まで)

休館日 第3月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始(12月29日～1月3日)

<https://www.norimuseum.com/>



海苔のふるさと 大森さんぽ

～海苔の旧跡・史跡めぐり～



D



A. 大森海苔のふるさと館の海苔乾し風景 B. 貴船神社 C. 貴船堀緑地
D. 大森ふるさとの浜辺公園 E. 海苔問屋



大森 海苔のふるさと館

海苔のふるさと 大森

日本の食卓に欠かせない「海苔」。
かつて東京の海でも海苔づくりが盛んに行われていました。

海苔養殖の始まり

日本の海苔養殖は江戸時代中期の享保年間(1716~1736年)に、大森から品川にかけての沿岸部で盛んになったとされています。

海苔の生育は、適度に潮の干満があること、遠浅で波が静かなこと、栄養分を豊富に含んだ海域であることが適しています。かつての大森・品川の沿岸部はまさにこのような条件が整った環境でした。

日本一の海苔生産地

江戸時代、大森の海苔は品質の良さから「御膳海苔」として將軍家などにも献上されました。また、大森から全国の太平洋沿岸や瀬戸内の海へ海苔養殖の技術が伝えられました。

明治から昭和初期にかけ、大森は質・量ともに日本一を誇る海苔生産地として最盛期を迎えます。



竹ヒビから海苔とり(昭和10年代)
東京都島しょ農林水産総合センター 所蔵

東京の海苔養殖の終わり

昭和30年代になり高度経済成長期には、生活排水や工業排水などの影響により東京湾の水質は悪化していきました。更に、東京港の港湾整備に伴う埋め立て計画が発表されました。このような経過を経て、昭和37(1962)年12月、ついに漁業権放棄を受け入れることになりました。こうして東京の海苔養殖はその姿を消すことになったのです。



家の周りは一面海苔乾し場(昭和30年)

海苔のまちを歩いてみよう

すでに、大森で海苔養殖が終わって約60年が経ちました。しかし、今でも40軒以上の海苔問屋があり、街を歩いてみると海苔づくりに関係する旧跡・史跡も多く見ることができます。

海苔のふるさと大森。その面影を巡るまち歩きをしてみませんか?

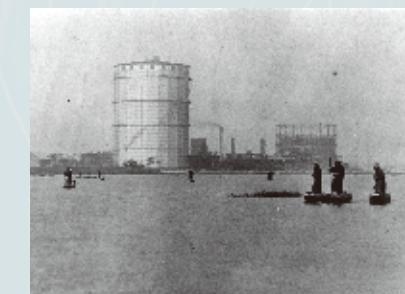


現在の海苔問屋の店頭

東京瓦斯と海苔

明治41(1908)年、東京瓦斯大森工場が開設されました。漁場からはガスタンクがよく見え、目印となっていたそうです。

工場は昭和62(1987)年に閉鎖され、グラウンドが整備されました。工場裏の岸壁を造成して、平成19(2007)年に都内初の区立海浜公園「大森ふるさとの浜辺公園」がオープンし、幅広い世代の憩いの場となっています。冬にはかつての大森の浜辺で見られた海苔養殖風景の再現として、当館が竹ヒビと海苔網を設置し、海苔の生育観察をしています。



海からガスタンクを臨む(昭和10年代)
東京都島しょ農林水産総合センター 所蔵

貴船神社

鎌倉時代の創建と伝えられています。境内には京浜運河開削計画に伴う海苔養殖場解散記念の石灯籠(昭和16(1941)年建立)や漁業納畢之碑(昭和39(1964)年建立)など、海苔づくりに関わる碑が残っています。

漁業納畢之碑は、昭和37(1962)年12月の漁業権放棄の記念碑で、江戸時代に海苔生産が始まり幕府に御膳海苔を献上したこと、明治政府に五千両を献上して27,500坪の漁場・官軍場を得たことなどが刻まれています。

大森漁業協同組合跡



大森漁業協同組合(昭和30年代)

昭和24(1949)年に発足し、昭和40(1965)年の解散まで、漁場の管理や配分、区画割り、資金の貸付や貯金などの信用事業も行いました。

跡地は児童館になり、海苔養殖業の歴史を刻んだ石碑が立っています。

三輪厳島神社

源義経の伝説が伝わる神社で、境内に海苔養殖の由来が記されています。大森の海苔の守護神として信仰されていました。

元々、厳島神社は現在の社務所の位置にあり、昭和3(1928)年に本殿の位置にあった三輪神社と合祀され、三輪厳島神社となりました。地元では弁天神社の名で親しまれています。



海苔の街 豆知識

海苔養殖を終えた後、広い海苔乾し場跡をアパートや駐車場、町工場に転用した家も数多くありました。また、当時の建築資材には安くて軽い波トタンがよく用いられました。

まちを歩くと、今でも当時の面影を残した建物や波トタンの外壁などを目にすることがあります。かつての様子がしのばれます。

大田区大森東地区 海苔の旧跡・史跡マップ

